

令和5年度第6回国立市学校給食運営審議会

会場： くにたち食育推進・給食ステーション会議室

日時： 令和6年6月20日（木）午後2時から午後3時45分まで

出席委員：片山副会長、赤迫委員、橋口委員、田中委員、戸田委員、村上委員、小野委員、
田村委員、林委員、二俣委員、久保委員、山元委員、七条委員、（13名）

事務局：土方給食ステーション所長、久保所長補佐、長野主査、岩田主査、塩塚統括責任者

【片山副会長】 それでは定刻となりましたので、これより令和5年度第6回国立市学校給食運営審議会を開始いたします。

本日はお忙しい中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。

本日は、大山会長が、公務でご欠席でございますので、副会長であるわたくしが司会進行を務めさせていただきます。

では本日の出欠席の状況ですが、先ほど申し上げました通り、校長会代表である大山会長、食育リーダー代表の白井委員、学識経験者で薬剤師会代表の里道委員、東京都多摩立川保健所の伊藤委員、女子栄養大学の堀端委員より欠席する旨の連絡をいただいております。

それでは、まず、今回より、事務局職員が、4月1日付け及び5月1日付け人事異動により追加と変更があったとの事ですので、紹介をお願いいたします。

【事務局】 貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。

まずは、去る4月1日付の人事発令により、栄養士である久保主査が新たに所長補佐に昇任いたしました。一般的に、市役所内での役職ですと課長補佐と同格になります。

【事務局】 栄養士の久保です。引き続きよろしく申し上げます。

【事務局】 また、同日付で栄養士の岩田主任が主査に昇任してございます。この役職は、係長職と同格でございます。一言申し上げます。

【事務局】 栄養士の岩田と申します。よろしく申し上げます。

【事務局】 最後に、5月1日付の人事異動で、事務の宮本所長補佐が議会事務局に異動となり、新たに子育て支援課から長野主査が着任しております。

【事務局】 長野と申します。右も左も分かりませんので、皆様、どうぞよろしく申し上げます。

【事務局】 以上、3名についての御報告でございました。

今年度は、市の事務局として、私を含め、この4名で執務してまいりますのでよろしくお
願い申し上げます。

御報告は以上でございます。

【片山副会長】 ただいまの報告のとおり、事務局職員が追加と変更されましたことにつ
いて、委員各位におかれましては御承知おきください。

それでは、まず、資料の確認をしたいと思います。事務局よりお願いします。

【事務局】 かしこまりました。

それでは、議事に先立ちまして資料の確認をお願いいたします。事前にメールいたしました
運営審議会次第、資料1の令和5年度事業報告、資料2として令和5年度学校給食費決算
報告書、資料3で令和5年度事業総括となります。最後に、本日、机上配付として席次表と
なっております。過不足等ございますでしょうか。

ありがとうございます。以上でございます。

【片山副会長】 それでは、(1)の事業報告についてを議題とします。

事務局から報告をお願いします。

【事務局】 かしこまりました。

それでは、事業報告につきまして御説明いたします。資料1を御覧ください。令和6年2
月15日の第5回運営審議会以降、本日6月20日までの4か月分の事業報告をさせてい
ただきます。

2月28日には、多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会献立研究部会が武蔵村山市で
開催され、国立市から栄養士が1名出席いたしました。続く29日には、多摩地区学校給食
共同調理場連絡協議会管理運営研究部会が羽村市で開催され、国立市から所長補佐と栄養
士主査が出席いたしました。

3月に入り4日には、第一小学校2学年の児童約60名が当ステーションを訪問し、栄養
士案内、指導の下、施設見学や食育について話をし、その後、2階会議室兼ランチルームで
給食の時間を過ごしました。

6日には、認定こども園国立富士見台団地風の子の園児12名、職員3名、保護者1名が
ステーションを訪問し、施設見学や試食を行いました。

7日には、4日の第一小学校と同内容とはなりますが、第八小学校3年生の児童約60
名が当ステーションを訪問し、栄養士案内、指導の下、施設見学や食育についてお話をし、
その後、2階会議室兼ランチルームで給食の時間を過ごしました。

21日、22日には、一般市民向けに市食育推進・給食ステーションと給食運営受託事業者であるシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社との共催による食育セミナーを開催いたしました。2日間で36名の参加があり、講演後は中学校給食を試食していただきました。また、同22日に第3学期の給食が終了いたしました。

新年度につきましては、4月10日に小学校の一部、11日に全学校が給食を開始しております。

24日には、東村山市の学校給食主管課職員5名が施設見学に訪れました。

25日には、多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会総会及び場長会が福生市で開催されました。今年度、国立市が会長市となり、私が会長となる関係から、私、所長と会長市事務局の実務上における役割について、今後の参考とするために、事務職と栄養士の所長補佐2名が出席し、見学いたしました。

26日には、市内の著名なイタリアンシェフとのコラボ給食で、日本海老協会から無償提供されたホタテをレシピにした、ホタテとブロッコリーが入ったホワイトシチューを提供いたしました。

5月2日、市長部局である都市農業振興担当課長、係長と農協経済センター職員も含め、学校給食における地場産物利用促進のための栄養士と地場野菜生産農家との意見交換会を開催いたしました。

また、14日には、2日の意見交換会との関連で、当ステーション、都市農業振興担当、農業経済センターとで事務的な部分での打合せを行いました。どのような手法だったら、極力、農家さんの手間が省けて、なおかつ利益につながるかを協議し、今後も前向きに協議を重ねることとなりました。

23日には、多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会管理運営研究部会が羽村市で開催され、国立市から所長補佐と事務主査が出席いたしました。

6月に入り、令和6年度の新委員による初めての献立作成委員会を4日に、また、14日には物資選定委員会が開催されました。

今回より、昨年度提出された国立市小中学校PTA会長等協議会の要望書に対し、所長や主に栄養士とで協議し、それにお応えする形で、保護者の負担軽減を鑑みながら、多摩地区の他の多くの自治体では市主導で献立や食材選定を決定して給食提供しているのと違い、国立市の保護者参加型給食は、保護者を通じて児童生徒の感想や意見などを聞き、それをそれ以降の給食に反映させる他に類を見ない国立市独自の特筆すべきすばらしい事項である

と自負していることも考慮して、現在の社会情勢の事由に適応しながら、極力保護者負担の軽減に資するため、献立作成委員会及び物資選定委員会の開催方式を変更いたしました。詳細につきましては、資料巻末に添付している文書を御覧ください。

5日には、当ステーションにおいて、市内栄養連絡会主催によるフレイル予防講座を開催いたしました。副題として、「高齢期に大切なお口の健康」として、地域包括支援センターの管理栄養士がパワーポイントと紙ベースの資料を使って講話をし、その後、簡単なお口の体操を行った後、くにたち食育推進・給食ステーションの紹介を行い、栄養バランスのよい給食を試食していただきました。当日は23名の参加がございました。この日、当ステーションが新たに食育の拠点の一つとして生まれ変わったことを契機に、他部署などとの連携による市民全体を包含した食育事業などを推進していく一環でございました。

11日、12日には、都立瑞穂農芸高等学校の生徒が飼育した豚肉を使用し、国立市内在住の著名なイタリアンレストラン考案のレシピで給食を提供いたしました。今回は、養豚について学んでいる畜産科学科から、動物とともに過ごす中での学びを少しでも広く伝えていきたいという思いを伺い、生徒が育てていた豚肉を給食に使用することで、畜産について知ってもらおう機会にしたいと考えて、市内全11校を対象に、事前に都立瑞穂農芸高等学校生徒作成による畜産や豚に関する音声つきパワーポイントを児童生徒に視聴してもらった上で、給食提供日を迎えました。

特に都立瑞穂農芸高等学校側の御要望で、第三小学校の5年生には、畜産業や豚について、無知識な状態で事前にアンケートを取り、その後、音声つきパワーポイントの視聴や実際に給食をしてもらった後にも再度アンケートを実施して、認識にどう変化が出たかを考察したいとのごことでございました。そして、11日には、私と市栄養士3名、都立瑞穂農芸高等学校教員と生徒4名、イタリアンシェフが第三小学校を訪問し、給食の時間に交流を行いながらインタビューを行ったり、高校生の思いを伝えたりして学びにつなげたところがございます。今後も、国立市の児童生徒により親しみを持って給食を食べてもらいたく、このような企画をしてまいりたいと考えてございます。

13日には、学校給食費決算について監査員に監査をしていただきましたので、後ほど監査の報告をしていただきます。

17日には、第二小学校の全校朝会に市栄養士が5名お邪魔して、くにたち食育推進・給食ステーションの業務の説明及び児童が親しみを持っていただきたく、市栄養士の役割や自己紹介を行いました。

昨日、19日には、多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会献立研究部会が福生市で開催され、国立市から栄養士2名が出席いたしました。

最後に、本日、第6回の運営審議会という経過でございます。

報告につきましては以上でございます。よろしく願いいたします。

【片山副会長】 報告が終わりました。御質問や御意見がありましたらお願いいたします。田中委員、お願いします。

【田中委員】 二小の田中です。よろしくお願いします。

先ほどの令和5年度事業報告の中にありました今月の17日月曜日、第二小学校に栄養士の方5名お越しいただいて、紹介時に好きなメニューの紹介とか、施設のユーチューブがありますという紹介をしていただきました。

同じ週、今週なんですけれども、朝授業の時間、もしくは、給食の前の時間を使ってKAMU COMEキッチンの紹介映像を流して、5年生だけにはなるんですけれども、アンケートを実施いたしました。そのアンケートを実施した結果を二小の給食担当の先生から、昨日、お預かりしてまいりましたので、一部御紹介したいと思います。

90名近くいる5年生なんですけれども、その1割近くがほうれん草アイスに関する感想でして、そのほかにも、ほとんどの意見がとても好意的で、栄養士さんをはじめ調理場に勤める方に対して感謝を伝える意見がほとんどでした。改善を求める意見といたしますか、個人的な意見も含めて、豚カツとソースを別々に提供してほしいという意見があったりとか、給食予定表に塩分を書いてほしいですとか、そういった意見も、少ないんですけれども少々見受けられました。

ほかに、私がこの感想を見て思ったことは、とても集中して映像を5年生の子たちは見ているんだなというふうに感じまして、最初から最後まで、使われている音楽まできちんと覚えていて、最後のほうで食缶を洗うシーンがあったかと思えますけれども、食缶を2時間で、5,000食分の食缶と食器を約2時間で洗い終わるのがすごいと思いましたというところまで書かれておりました。

全員からアンケートというか感想をいただいた中で、非常にうまくまとめられている子がいましたので紹介します。「動画を見て、いろいろな人が自分たちに安心安全の給食を作っていることが分かり、次は作っている人たちのことも考えて食べようと思いました」という意見がありまして、とても私はこれが心に刺さりました。

今後、二小としては、私は6月末で給食審議委員を交代してしまうんですけれども、二小

の夏季休業中、夏休み中に夏季特別講座というのが二小ではありまして、通称二松クラブと
言われています。それは7月の23日、24日、25日、3日間で行われるもので、学校と
育成会の共催で、大人の技を通して子供たちに豊かな出会いと体験の機会をつくることを
目的に開講すると書かれております。

これ、学校の授業と違って、保護者の方とか地域の方が講師となって、マジックの構造を
学んだりとか、ロケットを飛ばしてみようとか、本当に大人の趣味を子供たちに教えるじゃ
ないですけど、結構、堅苦しくない子供たちに技を教える場になっています。その場に給
食ステーションの方がお越しいただけないかなというふうに考えていまして、お声がけを
して、今、調整をいただいているところです。

こうした取組の中で、あまり食育とか、堅苦しい考えではなくて、国立の給食について身
近に感じてもらえたらなと思っているので、二小にどんどん足を運んでいただいて、栄養士
さんの顔と名前まで覚えていただけるように、少しでも働きかけをしていきたいなという
第一歩になったかなというふうに感じています。

以上です。

【事務局】 ありがとうございます。

最後の部分で、塩分の関係とか、別々のほうがというのはよく献立作成委員会でも御意見
は出て、当然、私たちも認識はしておりますので、当然、対応できるものとできないことは
当然あるんですけど、当然、頭の中には入っておりますので、決して忘れていたわけではない
ということはお認識いただければと思います。

あと、うちの栄養士は7名おるんですが、そのうちの5名が行かさせていただいて、2名、
どうしても調理場に入らなくちゃいけなかったものですから行けなかったんですけど、お
褒めをいただき、親近感が湧くようにこれからもという部分で、本当にうちの栄養士、皆さ
ん、もう当然、私たちが見ましても本当に真面目で勤勉で心持ちのよい栄養士ばかりですの
で、これからこういう栄養士が、飲食に限らず、各校からお声がかかればお伺いさせていた
だいて、児童生徒と触れ合っていける場をつくっていききたいなとは思っておりますので、よ
ろしく願いいたします。

ありがとうございます。

【片山副会長】 ほかに御質問や御意見ございますでしょうか。

ないようですので、次に移ります。それでは、(2)の令和5年度学校給食費決算報告に
ついてを議題とします。

事務局から報告をお願いします。

【事務局】 かしこまりました。

それでは、令和5年度学校給食費決算につきまして御報告させていただきます。まず、1ページを御覧ください。収入の部ですが、給食費は調定額2億4,890万3,287円に対し、収入額は2億3,931万3,517円、未収入額は875万778円で、収納率といたしましては96.15%でございます。なお、不納欠損額につきましては83万8,992円でございます。

給食費の内訳ですが、令和5年度の現年度給食費といたしましては、調定額が2億4,064万443円に対して、収入額が2億3,909万9,973円、未収入額が154万470円で、収納率は99.36%でございます。

令和4年度以前の過年度給食費といたしましては、調定額が826万2,844円に対し、不納欠損額が83万8,992円、収入額が21万3,544円、未収入額が721万308円で、収納率につきましては2.88%でございます。

前年度繰越金が749万4,777円、雑入が預金利子、廃油売却収入で14万9,403円でございます。最後に一般会計からの補助金といたしまして3,000万円を繰入れてございます。

収入額の合計といたしましては、2億8,654万7,467円でございます。

下段左の支出ですが、主食購入代といたしまして3,081万6,465円、副食購入代といたしまして1億7,002万9,000余円、牛乳購入代として5,720万4,751円、調味料購入代といたしまして954万8,923円で、合計額が2億6,759万9,143円でございます。

右側の表ですが、収入合計から支出合計を差し引いた残額は935万8,554円ですが、この残額を令和6年度に繰り越すものでございます。

続きまして、2ページでございますが、2ページ以降につきましては、1ページで御説明いたしました内容の補足資料となっております。2ページ、3ページにつきましては、1ページで説明いたしました現年度給食費の収入における調定額、収入額、未収入額、支出額等を、それぞれ小学校、中学校別、月別で示しております。2ページが小学校で3ページが中学校でございます。さらに、喫食者数を添えております。

続きまして、4ページでございます。4ページにつきましては、1ページで御説明いたしました物資購入代の支出に係る小学校における月別の内訳を示したもので、さらに主食と

副食について細分類しております。

続きまして、5ページでございます。5ページは、同様に中学校における物資代金の月別の内訳を示しております。

続きまして、6ページでございます。6ページは、1ページで説明いたしました過年度給食費の収入と不納欠損額の対象年度等を示したもので、不納欠損につきましては、収入がなく、10年を超えたものは、表上、平成25年度分の39万8,442円が該当いたします。また、収入額内訳といたしましては、小学校分が13万6,908円で、中学校が7万6,636円、収納率といたしましては2.88%でございます。

続きまして、7ページでございますが、不納欠損処分について御説明した文書となります。

続きまして、8ページでございます。8ページは、過年度給食費の未納額を小中学校及び年度別に示したもので、上段が人数で下段が金額でございます。

続きまして、9ページは不納欠損の対象者を記載してございます。なお、名前につきましては英字で置き換えておまして、同英字のハイフン1、2とありますのは兄弟等の関係を示しているものであります。

続きまして、11ページでございます。11ページは、それぞれの項目における前年度との比較の資料となります。

最後のページにつきましては、去る6月13日に行っていただきました国立市学校給食運営審議会監査員による監査報告書を添付しております。

報告につきましては以上でございます。よろしく願いいたします。

【片山副会長】 報告が終わりました。

御質問等がある場合は、監査員の監査報告を受けてから伺います。

それでは、第六小学校の小野委員と第七小学校の田村委員、よろしく願いいたします。

【小野委員】 それでは、監査報告をいたします。監査報告書を御覧ください。

監査は、6月13日木曜日午前10時頃からくにたち食育推進・給食ステーション2階会議室兼キッチンルームで行いました。

監査の内容は、令和5年度の学校給食費の収支書類と証拠書類を監査したもので、監査の結果は、ここにありますとおり、令和5年学校給食費収支状況について、帳簿及び預金通帳等を照合した結果、適正に処理されていることを認めます。

令和6年6月20日、国立市学校給食運営審議会監査員 小野麻衣。

【田村委員】 監査員 田村由希。

【小野委員】 以上です。

【片山副会長】 監査員には、大変お忙しい中、帳簿や関係書類について監査をしていただき、ありがとうございました。

それでは、御質問や御意見がありましたらお願いします。

久保委員、お願いします。

【久保委員】 二中の久保です。よろしくお願いします。

4ページの令和5年の月別支出内訳（小学校）ですけれども、パンが10月ゼロで、麺が8月、9月から3月までずっとゼロという状態に来ていまして、中学校も10月ゼロと、あと、麺は1月末という形になっているんですが、これは何か説明あればお願いしたいんですけど。

【事務局】 実は、まず、小学校が3,500～3,600食で、中学校のほうが1,500食という認識の下で聞いていただければと思うんですが、麺に関しましては、麺屋さんがプラスチックの箱を持って給食センターに届けていただけるんですが、なかなかこの食育ステーション、場所が小さかったものですから、本心から話せば、なかなか置き場所を取るスペースを確保するということが非常に難しい状況でございました。なかなか開始当初から麺類が出せなかったんですが、去年はそういう話で、大変、子供たちには寂しい思いをさせてしまったなと思っているんですが、ここでいろいろ調理委託会社であるシダックスさんとも協議をさせていただいて、置き場所を何とか確保するのと、あと、手間がかからずに運べる方法なども研究しながら、今年の1学期からは麺をお出しすることができるようになったというところでございまして、昨年度はそういう状況ではございました。

【久保委員】 ありがとうございます。

ちょっと今の回答をいただいてまた質問なんですけれども、これは設計段階では誰も気がつかなかったという感じですか。すみません、今、聞いてもしようがないことではあるんですけど。

【事務局】 そうですね、実は、今、ここに統括責任者がいるんですけど、設計段階で統括責任者がいなかったものなんで、例えば3,900平米のこの面積でこの建物を建てます、こういう設備を造りますというところに加わっていなかったんですね。ですので、多分、統括責任者に何でなんだという質問をするのは酷だと思われれます。

まず構造上の課題があったとしたら、それ以外と調理を委託する予定になっていたシダックスの社員、あるいは、設計会社とか、強いて言えば私たちもそうですけど、見ているの

で、そこまで、置き場所の確保のスペースの大きさをどのくらい確保していいのかということまで計算しきれなかったという部分に対しては、確かに最初に見落としがあったのかというのは否めないかなとは思ってはおります。

【久保委員】 ありがとうございます。

でも、今は無事に解決して、麺も等しく食べられるようになったということで安心しております。今後ともよろしくお願いします。ありがとうございます。

【片山副会長】 ほかにございますでしょうか。

それでは、(3)の令和5年度事業統括についてを議題とします。

事務局から説明をお願いします。

【事務局】 かしこまりました。

それでは、端的に前年度の違いとポイントを絞って報告いたしますが、何分給食センターからくにたち食育推進・給食ステーションに転じた年となつてございますので、変更点がかかります。少々お時間をいただくことを御了承ください。

1、食の安全安心の確保の(1)の④地場野菜の使用量につきましては、11.40%と、令和4年度と比べまして6.84ポイントの大幅減となつてございます。これは、夏場の酷暑と乾燥により秋野菜の生育に大変なダメージを受け、納品できる野菜が激減したことと、納入してくださっている農家さんの事情によるものでございます。

(3)給食充実につきましては、黒ポチの2つ目で、輸出用ホタテ貝応援事業として、北海道森町、一般社団法人日本海老協会から無償提供頂いたホタテを食材として使用いたしました。

黒ポチ5つ目では、地場農産物のさらなる活用促進のため、市内若手農家の方々にステーションを訪問いただき、懇談会及び試食、施設見学を行い、新規参入に向け協議を持ちました。

(4)食物アレルギーへの対応につきましては、黒ポチ3つ目で、第2学期からアレルギー一等対応食を開始し、小学校13名、中学校1名に提供いたしました。

2、食育の推進・学校との連携では、黒ポチ1つ目で、国立市農業まつりに出店して、給食で使用している低温長時間殺菌牛乳を販売いたしました。

黒ポチ3つ目では、第一小学校2学年生、第六小学校3学年生、第八小学校3学年生の児童がステーションを訪問し、施設見学、給食の時間を過ごす食育事業を行いました。

次に、黒ポチ4つ目では、市内就学前施設のステーションホームに関して、あおいとり保

育園の園児が施設見学、模擬配膳体験を、また、国立富士見台団地風の子の園児が施設見学、配膳、試食を市の栄養士の指導の下、行いました。

黒ポチ5つ目では、令和4年度の各小学校の未就学児健診日に合わせ、未就学児とその家族向けのステーション見学及び試食会を実施したのですが、令和6年度においては、参加者が減少したことから、市内就学前施設の施設長などを対象に施設見学及び試食会を行い、実際に体験した結果、よければ、今後、保護者の方々に供用していただけるようお願いをいたしました。

黒ポチ6つ目では、市食育ステーションとシダックス共催による一般市民向けの食育セミナーを2回開催いたしました。講師は、給食運営部門を担っているシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社の社員で、東京都栄養士会理事であり、大妻女子大大学院非常勤講師である当ステーションの統括責任者が行いました。

3、くにたち食育推進・給食ステーション開設関係では、黒ポチで4つ記述してごさいます。

記述してごさいませんが、くにたち食育推進・給食ステーションの移転に伴い、6月末からカウントダウン給食を旧ツイッターで配信し、過去一番の閲覧数となりました。大きな事故もなく、給食センター約55年間の歴史の幕を閉じ、華やかに飾ることができました。

記述している部分につきましては、特に黒ポチ4つ目で、視察について、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地からお越しいただきました。

最後に、今後の課題でございしますが、3つ挙げておりますが、長文となりますので、補足説明は割愛させていただきたいところでございしますが、どれも大変重要な課題だと認識しております、特に黒ポチの3つ目の②、ただ給食を作っているところで、目立たず地味だった旧来の給食センターのイメージを打破し、改めて当ステーションは市の食育の拠点の1つとして生まれ変わったことを市民全体に周知するよう心がけ、認知度を最大限に上げて、将来的には世代を超越した市全体の食育に推進していくために、情報発信に最大限注力していくこと、最下段の「「出向き」・「出歩く」・「身近に感じていただける」、そんな栄養士集団を構築していく」は、今後の課題でもあり、私所長がイニシアチブを取って、尋常ならぬ意気込みで進めていく決意を持っております。

いずれにいたしましても、どの課題にも全力で解決や成果を出すことに向けて進捗できるよう、業務に精励してまいります。

御報告は以上でございます。

【片山副会長】 説明が終わりました。

御質問や御意見がありましたらお願いします。

七条委員、お願いします。

【七条委員】 医師会の七条です。

食物アレルギーへの対応について幾つか質問があるんですけど、まず、1点目なんですけど、確認なんですけど、今、食物アレルギーの除去をやっているのは、鶏卵と牛乳と、小麦もやっているんだっけ。鶏卵、牛乳だけだっけ。鶏卵、牛乳だけですか。あと、鶏卵に関しては、加熱卵は出しているけれども、いわゆる生に近いような給食は出していないという認識でいいですか。

【事務局】 基本的に加熱したものを。

【七条委員】 出しているということですね。分かりました。

もう1点は、食物アレルギーの対応者数が小学校で105名、中学校で22名、これ、僕は管理指導表を書いていて、それぐらいなんだろうなという実感はあるんですけども、実際に第2学期からのアレルギー等対応食を開始したのは、小学校13名、中学校1名しかいないんですけども、これ、かなり数に差があるというのは、対応できるのが鶏卵と牛乳だから、その他のアレルギーがあって対応できないからこの人数になっているという認識でよろしいですか。

【事務局】 そのとおりです。

【七条委員】 分かりました。

もう1点あったのを忘れちゃった。ちょっとまた思い出したら質問します。

ありがとうございます。

【片山副会長】 ほかにございますか。

【七条委員】 ナッツも出していなかったっけ。

【事務局】 ナッツ、出していないです。

【七条委員】 ナッツ類も出してなかったんだよね。

【二俣委員】 一中の二俣です。よろしくお願いします。

一中の配膳のことなんですけれども、一中は置く場所がないのでしようがないのかなと思って理解はしているんですけど、配膳台を廊下に置きっぱなしにしたり、教室の後ろに置いてあったりするんですけど、そこに布のカバーをかけて、一応、対応はしているんですけど、それを外して運ばれてきた給食を乗せて配膳するという形で、今、やっているんですけど、

衛生的にあまりよくないなというふうに意見が出ていまして、自分のウェットティッシュで拭いていた先生もいらっしゃるんですけど、もしできるならば、消毒のついた布を給食と一緒に添えていただくと、それを使って拭いて、また返却してということができるので、そうしてもらえると、せっかく給食センターで衛生的に頑張って作ってくださっているものが、配膳のときに衛生的でなくなってしまうのを防げると思うので、できたらそれをお考えいただきたいなと思います。

【事務局】 そこら辺、非常に学校教育の範疇と給食の範疇がちょっと定かではないところなんですね。教育として配膳台をきちっときれいにさせるということは教育の範疇なんですね。ですので、そこら辺、どこまで踏み込むかによって違いが出てくるので、そこはちょっと今後の協議になると思います。

ただ、配膳台自体は、長期休業中にこれから入るんですけども、それについては配膳員さんたちにきれいに清掃、消毒をしてもらうということを毎年やっております。ただ、配膳台自体、私も学校に行ってみると、食べた後、ちゃんときれいにしてないんですよね、結構、見ると。食べかすが残っていたり、そこら辺は教育の一環ですので、きちっと拭いていただくように指導していただくということが学校の中で必要なのかなというふうに思っています。そこら辺も含めて、どうするかということを検討しなきゃいけないのかなというふうに思っています。

以上です。

【二俣委員】 ありがとうございます。

【事務局】 今、統括責任者が申したとおり、問題として提起されているということは認識いたしておりますので、例えば私の立場ですと、校長先生とお話しするという形になるんですが、公立の校長先生だとか、あるいは、校長会長とお話をするのかという感じで、今、お話になったような御提案も含めて協議はしていきたいと、こういう話がありましたということはお伝えして、確かに今、統括が言ったように、学校教育の一環でもあるかとは思いますが、衛生に保つということは。給食センターやシダックスが用意するのも、そういうのも一つの論理ですし、それを使って子供が拭くというのも教育の一環ですし、非常に差配が難しいかと思っておりますので、その辺は校長先生と話をし、やれる、やれないも含めて、今後、検討していきたいなとは思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【二俣委員】 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

【片山副会長】 林委員、お願いします。

【林委員】 八小の林です。よろしくお願いします。

すみません、ちょっと1点確認なんですけれども、2番の黒丸1番の国立市農業まつりに出店して、低温長時間殺菌牛乳を販売したんですが、この牛乳というのは、実際、給食に出されているものと同じものでよろしかったですか。

【事務局】 基本的には、分量というのはほぼ同じなんですけど、名前が違いまして、みんなの牛乳というあれを、市販されている、東毛酪農で市販している牛乳なんですね。先ほど申しましたように、低温長時間殺菌、いわゆるパスチャライズ牛乳、これは同じです。65度30分の低温で長時間殺菌するという牛乳で同じでございます。このパスチャライズ牛乳とコーヒー牛乳を用意させていただいて販売をしました。

ちなみに、この辺ですと立川とかで買いますと200円は超えると思うんですが、150円であつという間に完売いたしました。

【林委員】 それなりに評判もよくということだったんですかね。

【事務局】 非常に寒かった日だったんですね、風が強くて。まさか私も、実際のところ、初めてだったもんですから、過去に一番売れると言われていた焼きそばとか、そういうものが、2日間、農業まつり2日間あるもんですから、どれぐらい売れるんだというのを農業担当に聞いたんですね。そうすると、350食ぐらい売っていますと、2日間で。というお話だったんで、うちは1日しか出さなかったんで、その半分を用意していて、でもきっと余っちゃうと思っておったんですが、何を勘違いしたのか、東毛酪農さん、250本用意しちゃいまして、1日間だけのなのに、もう絶対売れ残ると思ったんですけど、終了する1時間前には完売しちゃったということで。

物自体もよかったというのものもあるんですけど、実は、ここにもいますけど、栄養士さんがすごい売り子として頑張っていただけなんです。本当にこういう場でどうですか、どうですかみたいな感じで、説明を聞いていただければ、どんだけやっぱりすばらしい牛乳なのかとか分かっていただけたので、そうすると市民の方が、1本だけじゃなくて、じゃあ、5本くださいとか10本くださいという話になっていくので、これに関しては、都市農業担振興当からも、今年の農業まつりはどうなんですかというのは聞いていただいているんですが、何分、御存じのとおり栄養士の皆さん、家に帰れば主婦になる方ですので、なかなか土日は難しいという部分がありますので、今は、どうするか苦慮しているところではあるんですけど、ただ、これに限らずマルシェもありますし、いろいろ、さくらフェスティバルとか、くにたちウォーキングとかいろいろあるかと思うんですが、アピール感を出すというのはどこに

出店するのはいいと思うので、出れた範囲の中でもできるだけ出していこうかなとは思っております。

【林委員】 ありがとうございます。

すみません、ちょっと実は質問させていただいた意図というのが別にありまして、うち、娘になるんですけれども、通常、牛乳好きなんですけど、なぜかちょっと学校の牛乳がどうしても苦手という声を聞いていて、甘みが強いというようなことを言っていて、すごく牛乳代金も上がっていて、前回は給食費で圧迫しているというようなことをお伺いしていたので、その辺で実際の子供たちの生の声と、この収支とかのバランスで、健康面でいいものであるということは分かっているんですけれども、どういうふうに、今後、考えていったらいいのかなんていうところを個人的に考えていました。

【事務局】 低温殺菌牛乳自体、逆に生乳（セイニュウ）というか、生乳（ナマニュウ）に近いんですね。ですから、そういうところで甘さとか、そういうのを強く感じるというところがあると思います。

高温殺菌牛乳は、本当に高温で殺菌してしまいますので、実はたんぱく質の網目がちょっと違ってくるんですね。ですから、そういうところと言うと、低温殺菌のほうが逆に栄養価が高いという形で、たんぱく質の鍵状のものが切れていないのでおいしさを感じやすい。ただ、皆さん方が飲んでいるのは高温殺菌であるので、慣れがどうしても、スーパーで売られているのが高温殺菌ですので、そういうところで子供がちょっと嫌がる場所が出てくるのかなという気はいたします。

ただ、一言、多分、担任の先生か保護者の方が一緒に飲んでいただいて、おいしいね、これって一言言っていたらだけで子供たちは変わりますので、そういうところでちょっと試してみてくださいもいいのかなという気はいたします。

ただ、子供自体は、これ、甘くてまずいねというのが教室にバーッと広まるので、ですから、そこら辺、集団心理みたいなのが働いてくるので、そこら辺、ちょっとやっぱりおいしいねってことを伝えてあげると、これはすごくこっちのほうがいいんだよ、本当は、みたいな感じで言ってあげると、ああ、やっぱり飲んだほうが得なんだねというお得感をつけてやっていただければいいのかなという気がいたします。

以上です。

【林委員】 分かりました。ありがとうございます。

【片山副会長】 七条委員、お願いします。

【七条委員】 医師会の七条です。

さっき質問1個忘れていたなと思って、今、たしかアレルギー対応食って、乳のアレルギーしかなくても卵も除去されて、その逆、卵のアレルギーがあっても乳も除去すると。これ、たしか対応食始まる前にもちょっと一言言ったことがあるんですけど、これ、ラインの関係で難しいんですかね。牛乳のアレルギーのある子は牛乳、乳製品だけの除去、それから、鶏卵があれば鶏卵だけの除去というのはなかなか難しいんでしょうか。

すみません、よろしくお願いします。

【事務局】 栄養士、久保です。

開設して、今、もう少しで1年がたつところで、少しずつ慣れてから、やっぱり安全なものを提供したいので、展開していかなきゃいけないなとは思っているんですが、とにかく通常給食を安定的に出すのも、1年かかって少しずつ落ち着いてきたかなというところなので、その辺も含めて、アレルギーの展開を、今後、考えていきたいと思います。この先、どうするかということはまだ決まっています。

【七条委員】 例えばほかの市、立川なんかは随分前からやっているよね、これ、除去食のやつ。実際、これ、ちょっと立川の実情を知らないんだけど、立川はやっぱり乳アレルギーだけしかないのに鶏卵も一緒に除去しているんですか。

【事務局】 実は、私は、現在立川ではやっているということだけ分かります。

【七条委員】 かなり食べるものが制限されてかわいそうだなという気はするけど、実際、今、対応は小学校13名と中学校1名しかいないんだなということで逆にびっくりしたんだけど、これからできるだけやっぱり、必要な除去だけを、最低限の除去だけをしていただきたいという要望です。よろしくお願いします。

【片山副会長】 ほかにございますか。

久保委員、お願いします。

【久保委員】 二中の久保です。よろしくお願いいたします。

もう間もなく1年ということで、本当にお疲れさまです。ありがとうございます。前の旧センターの状態を知っているので、やはり新しくなって、こうやって栄養士さんたちもどんどん学校に向かっていろいろなことをしてくださって、本当にありがたく思っています。

質問なんですけど、ステーションが開設して間もなく稼働して1年ということなんですけど、残菜率とかが分かれば、取りあえず直近3か月ぐらいで出せる範囲でお伺いしたいというのが、まず市の方をお願いということですね。

あと、当初、とても心配、市民の皆様から心配されていた、PFIという形で事業者様が入って市と一緒にやっていくということで始まっているんですけども、運営事業者様とはうまくいっているのかどうか、1年やってみて、こういうところが工夫してうまくやれているとか、こういうところはちょっと今後、課題かなというところがあれば、それもお聞かせいただきたいなという、この2つです。

あと、事業者さんにちょっと質問なんですけれども、今、ぶっちゃけ人手不足でしょうかというところですか。求人を見ていると、4月15日に上がっていたものが今日も上がっていて、例えば調理補助、食缶洗浄、配送とか、事務は最近、決まったと伺っているんですけども、この辺はいつも恒常的に足りないのか、入ってすぐ辞めてしまうというようなことなのかというのはちょっと気になっていまして、離職率が分かればお知らせいただきたいなというところがまず1点ですね。

だから、人手不足かどうかということと、離職率が出せればお願いしたいということと、今、働いていらっしゃる方で、学校のママさんとかも結構いるんで、地元率が出せれば、差し支えない範囲でお聞かせいただきたいということですね。

あとは、逆に市に対して物申したいことがあれば、この場ですべて出していたらとは思いますが。

あと、ごめんなさい、最後、市に1点、お願いというか質問なんですけど、これまで国立市の給食の食育ビジョンということで策定に携わっていただいて本当にありがとうございました。すてきなものができたと思うんですが、今、最新が2023年3月のものでよかったですでしょうか。来年度、この7月からになると思うんですけど、食育ビジョンを、内容自体は変わらないと思うんですけど、裏表紙に開設準備室ってまだなっているので、これも給食ステーションになるのかなというところが質問です。

以上です。

【事務局】 残菜率についてお答えします。すみません、私の手元にあるのが、令和5年度の2学期と3学期の数字になります。令和5年度小学校の2学期が17.6%、小学校の3学期が18.0%、それから、中学校の2学期が14.6%、3学期が13.8%となっています。

令和4年度と比較しますと、小学校のほうは少し増えております。中学校についてはほぼ横ばいとなっております。旧給食センターと今の給食ステーションでは、施設が違うのでやり方がちょっと変わっているので、単純に比較はできないと思いますが、小学校のほうで一

つ考えられる理由として、残菜が増えた、個別食器になったことで、食育としてはよい観点なのですが、やっぱり配膳のところでちょっと、今まで角ランチ皿で一つで配っていたものが、少し難しくなったのかなと思います。あと、先ほどもお話ししたんですが、まだ稼働して1年なので、データを見るのはこれからかなと思っています。

【事務局】 それで、前にも申しましたように、残菜の測り方が変わっているので、単純に比較はできないかと思います。ただ、センター時代と今で、例えば食材の納品量を増やしたとか少なくしたとかはないですし、なおかつ、最終的な味つけの確認というのも市の栄養士がしっかりやっていますので、その辺、センター時代が継承されている部分ではあるので、その部分以外の部分で、今、お話しした部分で、例えば個別食器に替わって配膳がちょっと時間がかかってしまって、結局、給食の時間が少なくなっちゃっているという可能性も、当然、各学校である可能性も、これはもう可能性の話ですけど、あるかもしれないという部分は感じてはいるところではございます。

【事務局】 すみません、逆に私、五小の先生から何か感じるものがあつたら、思い当たることがあれば教えていただきたいんですけど、特になければ結構でございます。

【赤迫委員】 五小の赤迫です。

子供たちの様子を見ていても、私は専科なので、補教というか、担任の先生がいらっしゃらないときにしか入らないんですけども、様子を見ていても、食器の難しさ、最初は感じていたんじゃないかなとは思いますが、分かれて食べる、分かれて食器を持って食べるというのも、やっぱり食育の中ではすごく大切なことなので、おうちでもそういうふうに食べている子がとても多いので、そんなに食器に対しては別に、ずっとそれで6年間食べていたという子供たちは、結構、食べにくいとか、最初言っていたんですけど、でも、最近はその声は一切聞かず、とても慣れた様子で食べているなという感じです。

残菜率が高いのは、本当に、高学年になるとすごく食べるようになるけど、やっぱり中学年、3、4年生はすごく残すイメージです。好き嫌いも結構多くて、自分が嫌いなものは、先生にうまいこと言って、これとこれとこれだけのけてくださいみたいな感じで来るお子さんとかいて、ぜいたくなことを言うんでないって言いながら、半分ぐらい取ってあげるけど半分は食べようねという指導はしているんですけど、やっぱりなかなかという感じです。

あと、やっぱり単純に時間が短いんじゃないかなというのは感じています。やっぱり子供たち、すごく忙しいんで、12時15分から1時まで、うちの学校だとそうなんですけど、12時15分から1時までには給食の時間なんですけど、12時15分からは準備の時間。早い

ところで30分ぐらいには食べ始めるという形なんですけど、早いところはやっぱり50分にはもうごちそうさまして、55分にはもう片づけて、もう配膳室に送るという感じなので、やっぱり正味20分、早い、すごく早い学年でも20分ぐらい。遅い学年だと本当に10分とかになってしまうことになりまして、今、プールが始まって、やっぱり着替えとか、そういうところで時間を取ってしまうというのも一つの原因かなという感じがしています。

すみません、以上です。

【事務局】 1点目のPFI方式がうまくいっているかどうかという話ですかね。先ほどちょっと視察のほうで、北は北海道から南は沖縄まで、海外はモンゴルからも来ておりますので、私は、今のところ、PFIの成功例の市だと思っております。私と、とにかく、今ここにいる塩塚統括との間の役割分担とか、当然、お互いを尊重し合う関係とかということも含めまして、うまくやれているかなという部分はあるかとは思いますが、何分、こういうのって、多分、巡り合わせというか、人間関係って巡り合わせなので、たまたまもしかしたら、これは私とか塩塚統括とか久保所長補佐だからなのかもしれないですし、分からないですけど、ただ、今、このメンバーで、お互いの言いたいことを言って、無理と言われることも当然ありますけど、それを何とか無理強いしてやってもらうこともありますし、そういうことを言える仲なので、そこは大丈夫かなと思っております。

調理員さんも、今、かなりの方がセンターから行っていただいて、ほぼ辞めずに、今、こちらの調理員をやっていただいていますので、立川（市）さんって、同じ時期にPFIを始めたんですけど、あそこは本当に全くやっていない、共同調理場をやっていないところが始めたというぐらいですので、そこと比べれば、経験している方がこちらに来ているので、そういう面では大きなインシデントもなかったもので、非常にうまくいっていると思えますし、あとは、栄養士さんですね。特に7人の栄養士さんが総出で、まずは安心安全でおいしい給食はもとより、子供たちとにかく楽しい給食の時間を過ごしてもらいたい、この気持ち一心でみんなで頑張ってもらえたので重大なインシデントもなかったと思っております。今年、落ち着いてきましたら、ちょっと力を、ほかの力を割いて、食育推進のほうにということで進めていこうかなとは思っておるところではございます。

3つ目の言いたいことに対しては、今、統括が答えます。

【事務局】 ネット等に毎回ちょっと出させていただいているのは、実は先ほど所長が言っていましたけれども、前の職員はそのままうちのほうで引き取らせていただいている状況です。また、今、立川さんのほうからやっていたという方も3名、うちのほうに来

られているような状態です。

なぜ出しているのかというと、実はパートさんが週2だったり週3だったりするんですね。その穴を埋めていくのに、ある程度、人数がいないと埋まらないんですね。皆さん、水曜日休みが多いんです、結構、実は。幼稚園が休みか何かで、早帰りか。それで、そういうところで水曜日をお休みされるパートさんが多くて、そこがガクンといないというところも結構出てくるので、ちょっとここはやはり募集をかけて、水曜日の方を採っていかないとどうしても空いてしまうというところがございます。

あと、洗浄については午前中いらっしゃるんですけど、洗浄についてもあと5名ぐらい洗浄される方がいるといいなというような形です。ですから、その辺、併せて募集をちょっと。

あと、うちのほうでどんどん抱えて鍛えていかないと、やっぱり慣れてこないとどうしようもないので、そういうところでどんどん、やっぱりあれ、AIですので、募集を一番上にするためにどんどんかけていかないと上に上がってこないんですね、あれは。ですから、そういう手を使って一番上に来るように、時期を見てポンポン入れるようにしています。

採用は順次どんどんかけておりますので、かけさせていただいて、少し余裕を持たせて事業を展開していこうというふうに思っておりますので、ぜひ皆さん方も申し込んでいただければというふうに思いますが、よろしく願いいたします。

あと、人員率については、ちょっと率は出してないので、大変申し訳ないんですがお答えできる状態ではないです。

市に対しては、一応、今現在、もう言いたい放題、3人でやっていますので、そういうところはないです。取りあえずです。うちの上層部とはしょっちゅうありますけど、市に対しては全くないような状態です。

以上です。

【事務局】　　ちょっと補足させていただければと思うんですが、地下の駐車場、見られたと思うんですけど、自転車ばかりで、自転車で来ているということは、国立市民かこの近所にお住まいの方。クルマ通勤はちょっと認めていませんので、御存じのとおりバスはほぼないという状況の中では、もうこの辺に住んでいるのが条件みたいになっちゃっているんで、多分、かなりの市内在住率だとは思っております。

給食センター時代は半分くらいの在住率だったものですから、そのままでこっちに移っているということは、それなりに在住率、市内在住率というのが高いのかなとは、それは調

理員さんに限らず、各学校にいる配膳員さんも含めて自転車通勤ですので、配膳員さんも国立市内の方が多いいというのものもあるかとは思っています。

今、お話があった人員不足については、このSPCの統括責任者でもやれる範囲というのは決まっていますので、もう私のほうから直接、いわゆる全国、本社のほうの、シダックス大新東ヒューマンサービスの学校給食本部の本部長代理とかにも電話して、直に私が言っていますので、統括責任者が言えない部分でも、私が言うことによってという部分で協力し合っているということでやらさせていただいているというところがあります。

【久保委員】 ありがとうございます。

当初、PFIが導入されるに当たって、国立市民の皆様ですとか、あと、当審議会でもいろんな心配な部分というのがあったりとかして、今、1年たってどうかなということでお伺いさせていただいたんですけど、求人の情報についても、そういう工夫があつて上に来ていくということと、特定の曜日がちょっと空いてしまうので引き続き募集をかけていくところですか、あとは、もう本当に心配されていた、旧センターで働いていた方がどうなっちゃうのということに関しても、こちらでまた続けてくださっているということ、あとは、事業者さんと市の関係がとても良好であるとか、これを聞いた市民の方もとても安心なさっていると思います。

あと、食育ビジョンに関しても、これ、最初はこういう形で始まって、皆様、市の方が尽力してくださって、このステーションの方も尽力くださいます、運営事業者の方も頑張ってください、本当に当初考えていた心配というものがとても私の中では本当にクリアされていって、本当に新しいステーションができてよかったなと思っていますので、いいニュースじゃないかなと思っています。

本当にこれまでありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。

確かに部署の名称について変更していませんが、確かに1年ちょっと、3月で1年たったところですので、4月の当初に、名前も替わったという部分もございますし、多少マイナーチェンジしなきゃいけない部分も出てきておりますので、我々市のほうが所長補佐のほうに、ちょっと時間をかけて改定するところを検証しながら、改定作業の準備を進めてもらうように指示を出しておりますので、また、時期を見計らって改定版ができたときには、給食ステーションと書いたところが出てくるかと思っていますので、それまでお待ちいただければと思います。

よろしく申し上げます。

【片山副会長】 小野委員、お願いします。

【小野委員】 第六小学校の小野です。

ちよくちよく給食の時間を見に行っているの、その雰囲気をお伝えしたいなと思います。昨日、見に行った感じでは、低学年、1年生はもちろん補助の先生、補助の先生というよりは担任の先生がついて配膳していましたが、それより上の2年生、3年生、4年、高学年はもうもちろん先生の補助なしでずっとやっていましたが、食器など替わっても、昨日、見た感じでは、もう先生なしで、自分たちで、多分、置く場所とかも全部決まっているし、大体量もこんな感じで入れればいいというのが多分分かってきたので、すごいスムーズに、去年の2学期、3学期とか、始まったスタート当初に比べると、随分スムーズにできているなというのが一つ。

あとは、コロナ対策が大分もう緩和されたので、すごい給食の時間、和気あいあいとした雰囲気、楽しい給食というのが、低学年なんですけれども、1年生、2年生、3年生辺りは教室がすごくにぎやかで、多分、恐らくそれで集中して食べれないのも一つなのかなというのはあるのと、高学年は10分間黙食というのがありまして、非常に本当に静かに、4年生、5年生、6年生の教室へ行くと、前を歩けないぐらいすごい静かに前を向いて食べているので、集中してやっぱり食べれるから残菜も少ないのかな。もちろん食欲もあるので、お代わりがすごい、食べたい子は何分待ったら(おかわり)できるみたいなのがあるので、それで、時間がないときはやはり残菜は多いんですけれども、そうじゃないときは、やはり食べるのも、あまりよくないのかもしれないんですが早いので、高学年を見回るとやっぱり少ないなという感想があります。

なので、低学年は、今、やっぱり、今まで黙食、前を向いて黙々と食べるというつまらない給食だったのが、楽しい給食になったからいいのかなと思いつつも、これから一生懸命やっぱりみんなで食べるというのも、先生とか保護者の声かけでできればいいなというのをお話を聞いて思いました。

以上です。

【事務局】 ありがとうございます。

何となく高学年の黙食って、今、お話、ちょっとお伺いして、校長が言っているのが分かるような気がします。よく知っている校長ですので。

今、いただいた楽しい給食、たまたまですけど、昨日、私と久保で、車で市役所に帰って

くるときに、今、話していた日本一おいしい給食とってコンビニで出したりとか、あと、区役所に出したりとかというのがニュースになっていますよね。でも、うちの久保は楽しい給食を目指したい。みんなで楽しんでもらいたい給食を目指したいという思いを強く持っていますので、おいしいのは当然なんですけど、別に勝った、負けたじゃないんですけど、そういうところでいろいろ栄養士さんと工夫しながら、楽しい、さっき言った楽しい時間を過ごしてもらいたいというのはもう子供たちにとっては何よりあって、それに向けて工夫、毎日、切磋琢磨、毎日していますので、今後とも、応援方よろしくお願ひしたいと思ひます。

ありがとうございました。

【小野委員】 ありがとうございました。

【片山副会長】 ほかにございますか。

それでは、次に移ります。最後に（4）その他ですが、委員の皆様から何かありますか。事務局のほうで、何かありますか。

【事務局】 それでは、まず、先ほど事業報告の中で、都立瑞穂農芸高校の豚肉を使ったコラボ給食の話を見せていただいたと思うんですが、もしかしたらこの中で、先週、先々週あたり、夕方のTBSのホラン千秋が出ている「Nスタ」を見た方がいらっしゃるかもしれないんですけど、そこに、多分、この2人が映っていたと思うんですけど、実はあれは給食費の無償化の関係で私に取材依頼がありまして、取材を受けてもいいけど、受けるんだったら、この都立瑞穂農芸があるので、これの取材をするんだったら受けるよという条件において受けたんです。ただちょっとしか出なかったんじゃないですか、三小の子供たちが。ちょっと残念だったんですけど。

実は、今度の土曜日、6月22日の土曜日からJ:COMのほうで、これは本当にコラボ給食、これの取材だったんで、これに特化したニュースが1週間流れます。1日3回ほど。後で、紙を持っていますんで、もしあれだったらコピーを差し上げますので。J:COM、「ジモトトピックス」というんですかね、という番組で放映されます。これに関しては、J:COMさんはコラボ給食についてのみを取材、撮影したので、都立瑞穂農芸高校の生徒さんとか第三小学校の児童、主には5年生ですけど、映っていると思ひますと言いたかったんですが、私、怖かったので、今日、電話して確認しました。映っているそうです。

尺としては1分50秒ぐらいの尺でニュースを流すということを確認取れましたので、もし地デジ11チャンネルになりますけど、見る環境がございましたら、あるいは、教えるだけでもいいんですけど、できれば視聴していただけるとうれしいなと思ひますので、もし

必要だったら後で配付、差し上げますのでお取りいただければと思います。

私のほうからは以上でございます。

【片山副会長】 それでは、今回が最後の会議ですので、各委員から御感想など含めて順番に御挨拶をいただきたいと思います。

【赤迫委員】 五小の赤迫です。

1年間、ありがとうございました。本当に何もできずにここに座ってお話を、ああ、そうなんだというふうな形だったんですけれども、すごく勉強になりましたし、先生方に返せることがたくさんあったので、すごくいい機会をいただいて本当にありがとうございます。また、次の先生にバトンタッチさせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。

【橋口委員】 一小的橋口です。

1年間、ありがとうございました。私もほぼ座っているだけで、何も発言できずに大変申し訳ありません。国立、新しいステーションに立ち会えたということはとてもうれしく思っております。また来年度も新規委員の方に引き継いでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【田中委員】 二小の田中です。

昨年度から引き続き、2期やらせていただきました。昨年度は、本当に書いてある内容も意味が分からず、話している会議の内容もよく分からず1年を終えてしまって、今年度もやっと分かってきたところで次の方にバトンタッチをするという形になってしまいましたけれども、1年を通して各審議員の皆様からの質問とか御意見とかを聞いていく上で、どんどん自分の理解も進んでいきましたし、学校の給食担当の先生と関わることも、今年度、できましたし、栄養士の横山さんが一緒に来ていろいろやり取りしてくださったというのが非常に私の中でうれしくて。

もう6月で替わってしまいますけれども、先ほどあった二小での朝会の後、各クラスでKAMU COME キッチン映像を見た後の給食の時間に、息子のクラスでみんなで大声で乾杯をしてから食べようということになったそうで、みんなで大声で乾杯をして食べたら、息子が言うには、子供の目から見ても残食数がすごく少なかったと。担任の先生が私に電話をしたくなるほど、本当に少なかったんですと。みんなで乾杯をしようという話になったのが、どうやら息子と息子の友達の声かけから始まったということだったので、引き続きあしたもやってねということで、残食数の減少につながっています、ありがとうございますと逆にお礼を言われて、とてもうれしく思いました。

ちょっとしたきっかけで、子供たちはどんどん変わっていくんだなというふうに感じましたし、私たちよりも柔軟に子供は対応していつてくれるんだなというふうに思いましたので、引き続き楽しい給食というのを心がけて、声かけを私たちからもしていきたいなというふうに思います。

1年間、ありがとうございました。

【戸田委員】 四小の戸田です。ありがとうございます。

旧ステーションも見させていただいて、そのときも動画を撮りましたし、ここでも動画を撮って、それを子供に見せられたことが個人的にはすごく大きな収穫でした。こういうふうに作っているんだよという話を子供にしていたので、2年生の息子なんですけど、誰かが給食残そうとすると、私が言っていたせりふを伝えるそうです。一生懸命作ったのに残したら申し訳ないでしょうみたいなことを言っているそうで、そういうところから、見るということが食育のきっかけであって、すごくシンプルな入り口かなと思っています。まだ四小は給食ステーションとの関わりに名前が出てきていないので、何かしらの形でここに見学できることができたらいいなと思っています。

見学会、ほかの給食センターの視察なども含めてとても勉強になりました。ありがとうございます。

【村上委員】 五小の村上です。よろしくお願いします。

私は長く審議員をやっているのですが、今年もやらせていただいたのは、本当、このセンターを見るための目標でここまでやらせていただいたんですけども、今日、皆さんのいろんな意見を、今日までいっぱい聞いてきて、全然、久保さんと初めてお会いした6年前ぐらいですね、のときの給食審議員と全然違うんですよ。会議の雰囲気も、給食センターの方と委員の距離も全然違って。だから、PFIの議論をしたときはもっとピリピリしていて、すごくこっち側は心配です、心配ですみたいな感じで、そっち側は大丈夫です、大丈夫ですみたいな、こんなふうに関心のあることを開示してくれて、開示してくれるような雰囲気とかがここにあるというのが、すごく信じられないというか、すごい素晴らしいことだなと思って、今日も聞いていました。

でも、それは、きっと恐らく給食センターの方たちも、コツコツ私たちのほうに歩み寄ってくれて、委員のほうも、ささいなことでも発言する勇気をずっと何代も、いろんな人に影響されてやってきたからなのかなというふうに感じて、ちょっと感動して、また来年につなげたいと思います。

【小野委員】 第六小学校の小野です。

私は1年だけだったんですけども、とても自由に発言をさせていただいたのかなと思います。土方さんがすごく何でも聞いてくれるので、なるべく子供たちの意見を私は言っているつもりなんですけれども、苦情みたいになってしまったことがあったのかなと、一応、家に帰って反省をするんですが、また、学校へ行くといろいろ聞くので、土方さんに言おうというふうに、校長等を通じて言ったりとか、いろいろ、校長が土方さんとお知り合いなので、それをうまく利用させていただいている、こんな2人なのかなとは思っているんですけども。

私は、六小は、毎年、替わるシステムなので、1年で、6月末で私は終わりになってしまいうんですが、また学校の、スクール、ちょっと名前、忘れましたが、学校の、あるんですけど、それがまた校長の下に私、つくポジションになったので、当ステーションの出向き・出歩く・身近に感じていただけるというのを目標にされているようなので、学校のイベント、ボランティアを通じて来ていただく企画等を考えられたらなど、今日、思いましたので、運営審議委員会としては私は最後になるんですが、また違った角度から土方さんはじめ、そうですね、栄養士さんの方々にも、多分、なるべく顔を隠しながら行くとは思うんですけども、またこのステーションに来るきっかけがあるなど、今回の審議会で思いました。

皆さん、1年間でしたがありがとうございました。いろんな発言を、こんな長い時間にもなってしまうて申し訳ないなと思いつつながら、でも、楽しく審議委員会ができたので、次の方にもこういう感じだったよというのを引き続きしていこうかなと思っています。ありがとうございました。

【田村委員】 七小の田村です。

1年間、ありがとうございました。今年の春から息子がお弁当になってしまって、振り返ると、やっぱり小学校にいるときに、給食、おいしかったとか、苦手なものが食べれるようになったりとか、そういういい思い出というか、すごい、あ、給食って本当にありがたかったなど、今、思っています。

逆に、給食って本当にバランスとか、献立とか、いろいろ考えて作ってくださっているので、私もお弁当を作るときに、楽しみながら、子供が好きなものを作るんじゃなくて、やっぱり食というのはこれからずっと続くものですし、体とかもつくるものなので、やっぱり食べるものが今後の成長につながるものだと思いますので、給食までには至らないんですけども、楽しみながらお弁当を作って、帰ってきたらお弁当箱が空になっているのを楽

しみに毎日頑張っています。

1年間ですけどありがとうございました。

【林委員】 八小の林です。

私は、今期、初めて委員になったんですけども、最初は会の雰囲気からしてまずびっくりしてしまったのをよく覚えています。こんなちょっと、堅苦しい感じで始まるんだなってちょっと印象がありました。でも、今になってみれば、給食というところを親子ですごい考えられた1年だなという感想を持っています。

私の中で、本当に一つの食事、給食、ありがたいぐらいで思っていたんですけども、やっぱりこの委員に年何回か参加していくうちに、ステーションの皆様の給食に対する熱い思いだとか、子供たちにどうなってほしい、本当に食のこととか、いろいろなところを考慮していただいて給食ができているんだなど、私自身も給食に対する認識がもうガラッと変わりました。本当にありがとうございました。子供とも、結構、給食に関する話題で盛り上がるが増えたのもすごくよかったなと感じています。

私は、来年度も引き続きこちらの委員をやらせていただくことが決定しましたので、また引き続きよろしく願いいたします。

皆様、本当に不慣れなことでのいろいろ御迷惑かけましたが、1年間、どうもありがとうございました。

【二俣委員】 一中の二俣です。

1年間、ありがとうございました。私も今年度からこの給食運営審議員をやらせていただいて、ドキドキしながら来たんですけども、皆さんの話を聞いて、ああ、すごいなと思いつながらいろいろ勉強させていただく1年でした。給食についてそんなに話に今まで出なかつたんですけど、「今日は給食、何だった？」とか、「コラボ給食、おいしかった？」とか、話す機会も増えて、私もいろいろここで見させていただいたり、視察に行ったりして、本当に皆さんの熱い思いを胸に、こんなふうに給食を作ってもらえているんだな、私の小さいときにも分からなかったことをたくさん学べるので、本当に勉強になった1年でした。ありがとうございました。

【久保委員】 二中の久保です。

1年間、ありがとうございました。思えば、旧センターのプラットフォームからワゴンが落ちてきたりとか、ハトが飛んできたりとか、そういったことがもうないというだけでも私は本当になんていい施設になったのだろうと思って、本当に一日も早くこの日が来ること

を願っていた市民の一人だったんですけれども、本当によかったと思います。

また、当初、やはり心配されていた事業者さんと協働するという点においても、いろんな心配がありました。本当に決まって、シダックスさんにやっていただくことになりました。今、約1年後、このように上手にやったださっているということに本当に感謝しております。これだけの大人が関わって、子供たちの口に入るものを、本当に一つ一つ小さなことから大きなことまでみんなで決めていくという機関はほかにはないと思うので、ほかの自治体も、多分、あまりないと思うので、すごく大事な機関だと思っております。残ってくださる方、本当に今後もよろしくお願いします。

子供たちが本当に楽しい時間を過ごせるように工夫していただいて、ありがとうございます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

【山元委員】 三中の山元です。

私が言いたかったことは、もう皆さん、言っていたという感じなんですけれども、私としては、旧センターから新しいセンターへの転換期みたいなものを目の当たりにすることができて、やっぱりちょっと感動というか、あそこからここまで行くんだというちょっと驚きがありました。そして、皆さん、いろんな意見を持って給食を作っているんだというのを実際聞いて、ああ、なるほど、私なんかここで座っているだけだけど、本当いろんな意見があるんだなというのをすごい感じました。子供とも給食の話とかで、なかなか、中学校に上がってくるとあまり親とも会話とかがなくなっていくんですけど、その給食の話とかで、今日の試食会でこんな食べてきたよみたいなことを息子と話すことができて、大変ありがたい期間だったなと思います。

残念ながら、なかなかうちの子供は食が細いもので、なかなか完食したよというのをなかなか聞けなかった。給食審議員に居ながらそこまで行けなかったのがちょっと唯一心残りだということもありましたけれども、この1年間、この機会を与えていただいて、皆様、ありがとうございました。

【七条委員】 医師会の七条です。どうも1年間、ありがとうございました。

僕もこれ、審議会委員10年やっているんですけども、毎年感じることは、非常に保護者の方々、それから、学校関係者、一番はやっぱり、給食ステーションになりましたけれども、給食を作っていらっしゃる、あるいは、献立を考えていらっしゃる、あるいは、栄養を考えていらっしゃる栄養士の方々、みんなが一生懸命、食のことを考えている。食ってやっぱり人間が生きていくうちの基本だと思うんですね。それに関して、これ、毎回、真摯に皆さん、

議論を重ねてこられて、先ほど村上委員だったかな、村上委員は7年ぐらいやっていらっしゃるのかな。それで、このPFIになるときに本当にけんけんがくがく、どちらかというPFIはよくないという意見が結構あったんですけども、実際、こうやって1年たつと、こんな立派な組織になってうまくいっているような感じがします。本当に、久保委員が言われたみたいに、給食ステーションができて本当によかったかなと思います。

私、もう1期、またやらさせていただくことになると思いますけれども、また、そのときはまた御一緒される方もいらっしゃると思いますし、また1年間、一緒に審議していただいた委員の方々、本当にどうもありがとうございました。

【片山副会長】 三小の片山です。

私は、新しいセンターに替わるタイミングで審議員をさせていただいたことが本当にありがたいなと思って、いつもこの審議会に出席させていただいていました。今までは子供が食べてきた給食の感想を聞くとか、おいしかったとか、そんな話で終わっていたんですけど、センターの方がどんな状況で給食を作ってくれていて、また、保護者の方がどういうふうに意見を反映していて、栄養士さんがどういう細かい気遣いをして考えてくださっているんだというのをすごく感じたんですね。私が感じたことをぜひ三小のほうにも反映したいと思っていたんですけど、残念ながらまだ三小は児童が来ていないですし、あと、PTAの保護者での試食会で来たくなって、そんな話もしたんですけど、まだ残念ながらできていないので、それをぜひ次の、私、2期目させていただくんですけども、できたらいいなと思っています。

今日、会長、いらっしゃらないですけど、会長挨拶って書いてあるので、すみません。1年間、皆様、本当にお疲れさまでした。また違うところで給食にも関わる方、いらっしゃると思うので、また皆さんで心を寄せて、子供たちが安全で楽しい給食を食べていけるように力を尽くせていけたらと思っていますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

本日の議題は全て終了いたしました。

では、これで、第6回国立市学校給食運営審議会を終了いたします。1年間、お疲れさまでした。ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございました。

— 了 —